

平成15年度（第11回）専門医資格認定試験の試験問題について

専門医制度委員会
委員長 大久保 利晃

平成15年8月30日・31日に、平成15年度（第11回）専門医資格認定試験が実施されました。今後の制度改善と受験者の便に供するため、委員会は従来どおり、この試験で用いられた試験問題を公表致します。試験方法は、昨年と同じです。以下に筆記試験、口頭試験の全問題文を掲載致します。

1. 筆記試験

A問題は、すべて答えなさい。（各問4点×10問）

- A1. 平成15年に公示された「職場における喫煙対策のガイドライン」の改正点のポイントを記しなさい。
- A2. 最近のわが国の労働災害統計として誤っているものはどれか。
- a. 労働災害の被災者は年間約60万人
 - b. 休業4日以上之死傷者は年間約13万人
 - c. 死亡者は年間2千人弱
 - d. 死傷者の7割以上が労働者50人未満規模の事業場での災害
 - e. 死亡者の約4割が製造業の労働者
- A3. MSDSに書かれている変異原性について、わかりやすく説明しなさい。
- A4. 過重労働による健康障害防止のための総合対策が平成14年2月に策定され、時間外労働が月100時間または2～6か月平均で月80時間を超える労働者に対し、産業医が必要と認める場合は、臨時の健康診断を受診させることになっている。その費用を負担するのは次のいずれか。
- a. 事業者
 - b. 労働者本人
 - c. 労災保険
 - d. 健康保険
 - e. いずれでもよい
- A5. 化学物質の発がん性を分類して公表している機関や組織の名前を2つ記しなさい。

- A 6. スクリーニング検査における特異度の定義を述べなさい。
- A 7. 手持ちのアーク溶接作業による健康影響について述べなさい。
- A 8. 労働者災害補償における無過失責任について説明しなさい。
- A 9. ダイオキシン類濃度の単位として使用する TEQ の意味を述べなさい。
- A 10. 防毒マスクの破過時間について説明しなさい。

B問題は、5問中3問を選択し答えなさい。(各10点×3問)

- B 1. 混合有機溶剤曝露の評価方法について、単独曝露の評価と比較しながら説明しなさい。
- B 2. 屋外での構造物組み立て作業の管理監督者に対して、熱中症に関する衛生教育を1時間枠で実施するように要請を受けた。予定する教育内容を列挙しなさい。
- B 3. じん肺管理区分2と判定されていた作業者が非粉じん作業に配置転換となった。今後、この作業者の健康管理をどのように行うべきか述べなさい。
- B 4. 地域産業保健センターが実施すべきサービス内容を列挙しなさい。
- B 5. 腰痛予防に関して作業標準を作成する際に言及すべき事項を列挙しなさい。

C問題は、5問中2問を選択し答えなさい。(各15点×2問)

- C 1. 事業場の過重労働による健康障害防止対策として、(週40時間労働として)月当たり80時間以上の時間外労働の該当者を対象として産業医による面接を始めたが、毎月該当者がほぼ同じであった。産業医としての今後の対応について述べなさい。
- C 2. 中小規模の企業において、労働安全衛生マネジメントシステムを導入するメリットおよびデメリットについて述べなさい。
- C 3. 感作性のある化学物質を取り扱っている職場における、作業環境管理および作業管理について産業医として述べなさい。
- C 4. ストレス関連疾患の予防策について、労働者個人レベルで行うべきこと、職場集団レベルで行うべきことを列挙するとともに、個人および集団レベルの活動について産業医が果たすべき役割を述べなさい。
- C 5. 専属産業医がその事業場内で診療行為を行うことのメリットおよびデメリットについて述べなさい。

2. 口頭試験

口頭試験では、個々の知識と関連領域の知識との整合性や、知識の総合性、経験の程度、

問題解決能力、総合的評価能力、企画力、対象の観察力、指導性、協調性等を見ることを目的としました。口頭試験【口頭試問】・【グループ討議】・【課題発表】では、4名のグループ1組と5名のグループ3組で3種類の試験が実施されました。

【口頭試問】

1. SARS に対して、実際にどのような問題が産業医をしている企業で議論されたか述べなさい。
2. 「労働時間」の法的な位置づけと、労働基準法第 36 条（時間外及び休日の労働）、いわゆる 36 協定をふまえた上で、過重労働による健康障害防止のための総合対策について述べなさい。
3. 健康増進法の趣旨をふまえて、「健康日本 21」と産業保健の関わりについて述べなさい。
4. 睡眠時無呼吸症候群と業務との関連で留意すべきことを述べなさい。
5. 労働安全衛生法に基づき事業者が実施しなければならない教育の種類を挙げなさい。
6. 労働災害防止計画の意義と位置づけ、および、第 10 次労働災害防止計画の重要な点について述べなさい。
7. 職場で使用する化学物質による健康障害を防止するための、リスクアセスメント手法について述べなさい。
8. 職域で実施する研究における個人情報の取り扱い上の留意点について、述べなさい。

【グループ討議】

1. 企業では非常な勢いでリストラが進んでいます。従業員の削減をはかり、新規採用を極力ひかえる方針が出されています。しかし、事業場によっては以前と変わらない数の従業員が働いており、社員数の減少による労働力不足は下請けに請け負わせ、関係スタッフの削減分を派遣業者やアルバイトで補っているのが現状です。下請け、派遣業は労働形態のピラミッドの底辺を支えるものであり、建設業界で主に問題にされてきましたが、製造業や一般業種にも導入され、ますます多様性の高い就業形態が導入されています。これらの現状をふまえ、事業場における多様性に対する産業保健上の課題を論議しなさい。
2. 長期的な不況を背景として、一定規模の人員削減を行うために、希望者を募ることになりました。これまでの業績等をもとに上司による個別の全員面接が行われることになりました。ある上司から、「自分が面接する部下の一人に、2度うつ病で数ヶ月程

度の休職をしたものがおり、面接時にどのような点に注意すべきかアドバイスがほしい」との申し出がありました。この上司にアドバイスする際の産業医としての留意点を論じて下さい。

3. A社では、現在60歳定年制度を実施しているが厚生年金の支給開始年齢の延長により、従業員に対して1年単位の「再雇用制度」等の導入を考えている。しかし、これらの対象者には「心筋梗塞」や「糖尿病」などで就業制限をうけている従業員もいる。「再雇用」に際して会社側は「傷病者」就業制限のある従業員は「再雇用」しないことを考えている。一方、労働組合は原則的に全員を対象に「再雇用」を要求している。この問題に関して産業医の意見を求められた場合を想定し、課題、留意点などについて論議しなさい。

【課題発表】

1. ある電子部品製造工場（従業員1,500人）で脱脂作業に従事している50名の男性作業員に、この3年間に毎年一人ずつ精巣腫瘍が発生しました。産業医として行うべき対応について、安全衛生委員会で10分間で発表しなさい。
2. ある事業場（従業員数1,500人、電気器具製造業）では、OSHMS（安全衛生マネジメントシステム）を構築したいと考えています。産業医も実行委員会の一員に選ばれました。実効あるOSHMSの作成のためにあなたが考えている構想をまとめて実行委員会で10分間で発表しなさい。
3. 健康増進法が施行されたのを機会に、ある事業場（従業員数200人、金属加工業）の安全衛生担当者は、この会社の課題に適した健康増進対策を立ち上げたいと思って、嘱託産業医をしているあなたに相談がありました。産業医としての助言をまとめて安全衛生委員会で10分間で発表しなさい。
4. 800人の自動車部品工場で、平均年齢が40歳である。最近、健康診断の有所見率が上昇してきた。産業医の立場からみた社員食堂の望ましいあり方について、安全衛生委員会で10分以内で発表しなさい。
5. 2ヶ月後には受注が倍増することが見込まれ、いままでの日勤のみの勤務形態では生産が追いつかないことが明らかなため、今回初めて交代制を含む変形労働制を導入することになった。社員の健康管理の立場から、導入に当たっての諸問題およびその対応策について、安全衛生委員会で10分間で発表しなさい。